

## 保育者の『遊び』の認識と実践に関する研究

～指導者養成との関連から～

清水一巳（名古屋女子大学短期大学部）

### 1. はじめに

本年3月に保育所保育指針の改定が行なわれ、これまでの通達から告示とされ、保育の最低基準が示されたことになった。その中で「遊び」と保育（教育）の関係については、簡素されたものの、これまでのものを受け継いでおり、「乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること（保育の方法）」や「保育士等は、子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の子どもの心身を把握しながら、その発達の援助を行なうことが必要である」と示されている（傍点および括弧内、報告者加筆）。

本報告では、子どもの「生活」と同様に重視されている「遊び」に焦点をあて、保育者－子ども関係における「遊び」の意味を明らかにすることを目的とする。小川氏（2008,7）は「遊び中心の保育」の重要性と関連し、「人生経験的体験が身につく営みとして、遊びを保障し、共感する保育者をどう養成できるのだろうか」と保育者養成の課題を提示している。遊びが重視されている「保育」の場において、保育者－子ども間で「遊び」がどのように伝達されているのか。保育者の遊びへの視点を取り上げ、遊びの場を提供する力（実践力）との関係から考察していく。

### 2. 研究枠組

保育指針では、保育士の役割を「倫理観に裏付けられた専門的知識技術および判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものである」としている。これらを踏まえ、保育を実践することが保育士には求められることになる。また、幼稚園教育要領（2008）では幼稚園教育の基本として、「教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児とともによりよい教育環境を創造するように努めるものとする」とされている。

その役割を実行するためには、第一に、「知識－経験」により得られた力量が考えられる。保育者養成校として保育現場から求められていることは、「知識」、「スキル（技法）」、「態度」を総合的に携えていること（尾島,2006,171）だという。さらに、尾島氏は保育者養成校在学時に、習得すべき事項で最重要視されているものは「人間関係やコミュニケーションの技能」としている。人間関係やコミュニケーションにはもちろん、他者の存在が重要になってくる。自己のもつ知識に加え、他者との関係性により形成される、いわゆる経験知というものが重要になるのである。第二に、平成元年の幼稚園教育要領の改訂で「幼稚園教育は、幼児の特性をふまえ環境を通して行うものであることを基本とする」と示されたことにより、環境（全体）への視点が重視されるようになった。つまり「個別－全体」への視点を持ち、子どもに向き合う力量が必要とされている。

松田氏（2007）は実践力を構成する要素として、それぞれ思考－行動、参加－距離化と

いう軸により、科学知、臨床知、体験、技術という要素を提示し、「授業実施力」、「学習集団構成力」、「授業構想力」、「企画力」を導き出している。この考えを「遊び」を中心とする保育活動へと援用し、遊びの実践力とする。

尾島氏（2006）は、保育者の専門性について検討し、その特殊性を「子どもともにある」発達援助であるとしている。保育現場での活動実施能力つまり実践力という捉え方は非常に有用な視点になると考えられる。

《調査》『大人のあそびへのまなざし』の調査

（平成 19 年 1 月実施、F 市内の保育所 174 施設に対する質問紙の郵送法による調査）

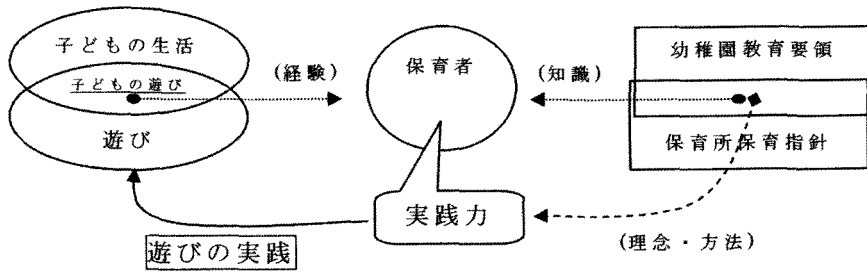


図 1. 遊びの実践力形成の構図

3. 調査の結果

- ① 保育という場においては、教育的視点（「しつけ、教育」）との関わりにより「遊び」が認識されていた。
- ② 若年層の保育者ほど「遊び」を中心（媒介）にした人間関係への視点がもたれていた。
- ③ 遊びの実践力は、現在の保育者の認識では「遊びの構想力」、「遊び実施力」がその中心となっている。

（自由記述）

- ・ こどもは「自由遊びの時間＝遊びの時間」と思っているように感じます。
- ・ 大人が設定した遊びと自由遊びのバランスが必要だと考えます。
- ・ （職員が集団遊びを始めたあと）職員が抜け、子どもだけになると問題が生じ、問題解決を子ども同士で出来ないことが多い。

これらの結果をもとに、保育者の「遊び」の実践について考察を行なう。

付記：本研究の一部は、日本レクリエーション協会平成 19 年度研究助成（保育所におけるレクリエーション指導に関する研究）によるものである。

《参考・引用文献》

小川博久,2008「幼児教育において『遊び保育』は本当に可能か」,日本幼稚園協会編,『幼児の教育』第 107 巻第 2 号,4-7

尾島重明,2006,「第 11 章 専門職としての保育者養成」,田中亨胤、尾島重明、佐藤和順編,2006,『保育者の職能論』,161-171

松田恵示,2007,「体育教師の成長モデルに関する意識調査」,(第 58 回日本体育学会体育社会学専門分科会一般発表資料)